瀬戸内季行

淡路島西海岸 編

目の前に広がる瀬戸内の海と空が夕暮れ時、茜色に染まる。兵庫県・淡路島の西海岸から望む夕日は、空気の澄んだ冬はひときわ美しい。「日本の夕陽百選」のまちに選定されている淡路、南あわじ両市を結ぶ西海岸沿いには、「淡路サンセットライン」の愛称の付いた県道が延び、インスタ映えするおしゃれな観光施設や飲食店が次々とオープン。さぁ、出掛けよう、淡路島へ――。

淡路サンセットライン沿いの休憩施設「緑の道しるべ郡家公園」（淡路市）から望む夕暮れ。水平線に目が沈みかける頃、国生み神話にちなんだ渦巻き状のオブジェのシルエットが鮮やかに浮かんだ

うっとり 冬の出会い

淡路サンセットラインは、島北部の淡路市から南部の南あわじ市を縦断する全長53・6㌔。文字通り、サンセットの頃に足を止め、西側を見渡すと、淡い陽光ゆらめく海が広がる。愛称が付いたのは平成元年（1989年）で、近年、観光施設などの整備が進み、令和の新しい時代となった今、改めて脚光を浴びている。

播磨灘の水平線。香川・小豆島。南あわじ市・慶野松原の松林。それぞれの場所で、鮮やかな夕日が映える。西海岸の観光スポットを巡れば、古事記に登場する国生み神話が伝わる歴史に触れ、ふぐなどの豊かな海産物の料理も味わえる。

サンセットラインを行き来するのは観光客だけではない。オートバイやツーリングを楽しむライダーや、自転車で巡るサイクリストも、夕日を望む時間帯に合わせて快走。兵庫県は、県道沿いの道路標識や休憩施設の整備を進めている。

1月上旬の平日。休暇をとってツーリングに来ていた2人組が出会った。

20代の頃から毎年来ているという兵庫県尼崎市の会社員胸永智生さん（52）は「寒い季節でも日の当たる時間が長く、照らされると心地よい。海岸沿いの雄大な景色とタ日の絶景ポイントがいくつも並び、これほど気持ち良く走れるところは少ない」と笑顔をみせる。

温泉につかり、景観美に酔いしれるのもいい。レジャー施設などを巡り、夜は家族で温かい鍋をつつくのもいい。海水浴客が集まる夏とは違った、冬の淡路島の魅力を感じてみよう。

文・田中洋史
写真・河村道浩

6 カリコリリゾート

ぶらり南国気分

異国情緒の感じられる南あわじ市にあるリゾート地。広さ約4万坪あり、南国パリ島をイメージしたカフェ、海沿いの白いチャペルなどを自由に巡って写真撮影が楽しめる。事前予約すれば結婚式もできる。天然芝のドッグランも整備され、愛犬家が憩う。送迎用のタイの三輪自動車「トゥクトゥク」で移動すれば海外旅行の気分に浸れる。午前10時～午後5時（3～8月は同6時）。問い合わせは同リゾート（0799・36・5970）。

淡路島3年とらふぐ

淡路島の冬の味覚で、約25年かけてブランド化に成功した養殖のとらふぐ。通常なら養殖ものは2年（800㌘前後）で出荷されるが、3年かけて1.2～1.8㌔にまで育てる。島南西部の福良湾が産地で、鳴門海峡の潮流にもまれて身が引き締まり、濃厚な味がたまらない。

足を延ばして

四国水族館

四国最大級 3月開館

瀬戸内海に面した香川県宇多津町に3月20日オープンする四国最大級の水族館（2階建て）。「四国水景」をテーマに、瀬戸内海や四万十川をはじめとする四国の生物など計400種類1万4000点を展示する。

1階は縦5㍍、横11㍍の展示コーナー「瀬戸内海の景」があり、カツオなど太平洋の回遊魚が遊泳する姿をゆったりと観賞できる。コーナー「神無月の景」では、アカシュモクザメが頭上を泳ぐ様子を見上げることができ、イチゴ、2種のはイルカのライブショーがある。

淡路島からは車で約1時間。瀬戸内の景色も楽しみつつ出掛けてみたい。

5 あわじ環境研究所 見晴らしの丘

松林眺め極楽

名勝・慶野松原近くの南あわじ市に昨年7月開業した。3階建てで、17室すべてに温泉露天風呂とテラスを備えている。

和を基調とした意匠にこだわり、客室はタイプの異なる12種類。西向きの客室からは瀬戸内の美しい眺望が目前に広がり、松林の隙間から見える夕日の風景も満喫できる。島特産の食材を使い、スペインの美食のまちをイメージして和と洋を組み合わせた料理も魅力。問い合わせは予約センター（0799・22・2521）。

4 幸せのパンケーキ 淡路島リゾート

大切な人と鳴らす鐘

淡路市の海沿いにある、行列のできるパンケーキ専門店。敷地には青い海と空に映える真っ白な「幸せの鐘」や、丸太のブランコがあり、リゾート感あふれたつくりが好評で、撮影スポットとしても注目を浴びる。

瀬戸内を望むテラス席で波音に耳を傾け、ぜいたくな時間を過ごせる。濃厚なホイップバターがのった「幸せのパンケーキ」、敷地の農園で栽培したイチゴを使った淡路発祥のメニュー「練乳いちごと宇治抹茶ホイップパンケーキ」などが人気。同店（0799・85・1111）。

3 伊弉諾神宮（いざなぎ）

国生み伝承 縁結びの社

国生みの伝承に登場する伊弉諾（いざなぎ）尊と伊弉冉（いざなみ）尊の2神をまつり、日本書紀にも記された日本最古といわれる神社（淡路市）。伊弉諾尊が「幽宮」を構え、余生を過ごしたと伝わる終焉の地に立つ。境内にある県の天然記念物「夫婦大楠」は樹齢約9900年、2株の木が途中で合体して1株となった神木で、夫婦円満や子授け、安産、縁結びに篤く信仰される。

大鳥居から本殿に向かう参道には数多くの灯籠が並び、参拝客を迎える。本名孝至宮司（75）は「御代替わりした昨年に続き、日本書紀編さんから1300年となる今年も多くの方に参拝いただきたい」と話す。

2 のじまえコーラ

歓迎のチュッ

閉校となった淡路市の小学校舎と敷地を活用した施設。ミニブタやヤギと触れ合えるミニ動物園があり、人気者のアルパカ「コラアル」もお出迎え。女性客ならやスイーツの歓迎までしてくれる。

採れたての地元野菜や、焼きたてのパンを約60種類販売するマルシェがあり、特産のタマネギを使った「オニオンブレッド」は大気。サラダバー付きのランチや本格的なイタリア料理を味わえるカフェ、レストランもあろう。水曜定休。問い合わせは同施設（0799・82・1820）。

1 HELLO KITTY SHOW BOX

ハロー！夢の世界

世界的に人気のハローキティの観光施設で、淡路市に昨夏オープンした。館内は立体映像などを使ったギャラリーなど、夢のような空間が広がる。レストランでは食事を味わいながら、歌と踊りのショーが楽しめ、終了後はハローキティと記念撮影できる。ランチ、カフェ、土曜はディナーの公演がある。水曜定休（2月末まで木曜も休み）。問い合わせは同施設（0799・70・9022）。

淡路島観光協会長 木下学さん

西海岸は元々、別荘地として開発されてきた。冬は北西の季節風が厳しく、思うほど晃眺して見なかったが、最近は美しい景観が注目され、通年で観光を楽しんでもらえるようになった。

若い人たちも来てくれるようになったのは、夕日に映えるスポットとSNSの関係も大きい。「次は泊まりで来たい」「今度は親と一緒に」。そんな良い循環につなげていきたい。

夕日のほかにも、美容液のような湯触りの温泉があり、食では皇位継承の儀式「大嘗祭」に献上されたタイがとれ、2～3月はイカナゴの稚魚「新子」の釜揚げも味わえる。今季はスイセンが遅咲きで2月も見頃が続く。多くの方に島を巡っていただきたい。

デザイン・八木徹平
レイアウト・田拓幸